

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200066		
法人名	株式会社 北陸福祉会		
事業所名	はびねすグループホーム高岡南		
所在地	富山県高岡市戸出町4丁目12番88号		
自己評価作成日	平成30年11月30日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お客様一人ひとりに寄り添いながら、ご本人の意思を尊重し、笑顔ある楽しい生活を送って頂ける様に支援しています。又、看護師の配置と、協力医の定期訪問診療により、お客様の健康管理を行っておりますので、安心して生活して頂く事ができます。さらに、誕生会や、季節に応じた行事の他に、高齢者いきいきサロンに参加したり、戸出七夕の見学や町内会の獅子舞いの慰問を受けるなど、地域行事への参加を通して、地域の皆様との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者に優しく対応し、皆で作った花飾りを見物がてら、戸出七夕を楽しんだり、納涼お楽しみ会でさかなすくいに挑戦するなど、暮らしの中に楽しみごとを取り入れながら、穏やかに暮らせるよう支援している。また、地域のいきいきサロンに出かけ、顔馴染みになった人達と談笑したり、14歳の挑戦では中学生とランプやゲームに興ずるなど、地域の様々な人達と交流する機会をつくっている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

はびねすグループホーム高岡南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らして頂く為に、グループホームの役割、位置づけに応じた理念を立てて支援している。	地域密着型サービスの意義を踏まえてつくった理念を職員に周知し、申し送り時などに理念の実践状況を確認しながら、日々の支援にあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高齢者いきいきサロンに出席したり、戸出七夕の見学や地元獅子舞の慰問など積極的に地域の行事に参加し、地域の皆様と交流している。	地域の色々な行事に参加したり、14歳の挑戦を受け入れるなど、地域の人達とのふれあいを大切にし、地域での暮らしの支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「14歳の挑戦」で地元の中学生を受け入れており、認知症高齢者のことを少しでも理解して頂けるよう、今後も受け入れていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の家族、地域住民代表、地域包括支援センターの職員、運営者、職員により、現状報告や参加者からの意見や要望を話し合い、サービスの向上に反映させるよう努めている。	「納涼お楽しみ会」などの行事や、利用者の介護度などを報告し、メンバーからは、感染症対策についての質問や提案などがあり、話し合ったことがらを運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を高岡市高齢介護課に送り、指導を仰いでいる。	高岡市高齢介護課に、介護保険制度の個別運用などについて確認し、適切な事業所運営に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成し、職員は勉強会で学んでいる。防犯上、玄関は鍵をかけているが、お客様が希望すれば、いつでも職員が付き添い、外出できるようにしている。	身体拘束による弊害などについて3か月ごとに勉強し、職員は、明るく開放的な雰囲気をつくりながら、身体拘束を生み出さない態勢をつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、職員全員で意識を共有している。また、入浴時や更衣の時などにちょっとした傷やあざも見逃さないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士を講師に招き、成年後見制度や権利擁護について全職員が学んでいる。又、成年後見制度を利用しているお客様がおり、関係者と話す機会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて十分な説明、話し合いを行い、ご家族にも重要事項説明書、契約書を読んで頂いている。又、不明な点があれば、その都度、理解して頂けるまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情、意見箱を設置している。また、ご家族が訪問された時に意見、要望を聞き、内容を業務日誌に記録し職員全員が把握できるようにしている。	利用者には、おやつや食事の内容などを相談し、家族には、訪問時などに近況を伝えると共に、気兼ねなく要望を述べてもらうよう心がけている。また、意見や要望にどう対応するかを職員間で確認し、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、代表者と全職員によるミーティングを行ない、意見交換や提案を聞いている。また、日頃より職員から要望や意見が気軽に聞けるようコミュニケーションを図っている。	色々なスキルを持った職員から、柔軟な意見が出るような雰囲気をつくっている。管理者は、日頃から職員の声に耳を傾け、提案や要望を聞き取るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や個々の職員と話をする機会を設けて意見を聞いたり、勤務状況に目を配っている。又、資格取得を推奨しており、職員がやりがいや向上心を持って働ける職場環境作りに努めている。資格取得者には、手当を支給している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に職員を研修に参加させている。中堅職員のほとんどは実践者研修を修了している。又、日本認知症グループホーム協会の研修にも参加し、研鑽を深めている。研修に参加した場合は、報告書を作成し、ミーティングの時に発表してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	公益社団法人日本認知症グループホーム協会に加盟しており、加盟事業所の見学や研修会に参加して勉強した内容をサービスの向上に役立てている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様が、安心して暮らせるように、入居される前後に本人の要望や困っていることを聞く時間を設けて信頼関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経緯やグループホームでの生活に対する不安、要望を時間をかけて伺い、ご家族の理解者であることを伝え、安心してサービスを利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族から要望や状況等の情報を集め、アセスメント表を作成し、それに基づき「その時」必要なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様は人生の先輩であるという思いを職員全員で共有しており、それぞれの得意分野で力を発揮して頂いて、お互い協働しながら良好な関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りを発送しており、内容は、献立表、行事や日常のお客様の様子が書かれている。行事の時の写真なども同封している。また、季節毎にホームの新聞を発行してお客様の生活状況をお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人が面会に訪れることもあり、継続的に訪れて頂け、楽しく過ごせるように心掛けている。定期的に訪れる友人には、関係が途切れない様支援している。	知人が2～3名で来訪し、居室で談笑したり、馴染みの深い戸出七夕飾りの花飾りをつくり、祭りの日には見物に出かけるなど、馴染みの人や場との関係の継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、共通の趣味や気の合う方同士で過ごせる時間を作るように、職員が調整役となり、お客様同士が良好な関係になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの生活が損なわれないよう、支援内容や注意が必要な点などの情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様との日常会話を通して情報収集を行い、希望、意向を把握するように努め、それを記録し、ミーティング等で全職員が情報を共有している。そして、今できる最大限の事を考え、ケアに反映させるようにしている。	利用者一人ひとりの心身の状態に応じて、会話や職員を目で追う仕草などに留意し、本人の思いや意向を把握するよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取りを行い、お客様個人の日誌に記入し、全職員がその情報を共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、表情、歩行状態、話し方等、日々のちょっとした変化にも注目し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞き、介護計画に反映できるようにしている。また、カンファレンス、モニタリングで職員の意見も組み込み作成している。	職員は、日頃から利用者の様子に留意し、記録に残している。その記録や、家族からの要望、かかりつけ医の助言などをもとに、カンファレンスで意見を出し合って介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・排泄等の身体的状況及び日々の暮らしの様子や、本人の言葉、行動等を記録している。職員には、業務開始前に記録の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、病院への送迎、付き添い、買物の代行等、必要な支援には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度の訪問理美容サービスや、協力医の訪問診療を利用される等、地域の社会資源を活用されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医について説明をし、ご本人、ご家族の希望に応じて対応している。受診、通院は基本的にはご家族にお願いし、無理な場合には職員が付き添っている。また、1ヶ月に一度協力病院の医師による訪問診療がある。	利用者や家族の希望に沿って、ほぼ全員が、協力医による訪問診療を受け、健康診断や予防接種にも対応し、医療面の安心につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常にお客様の健康管理や状態の変化に応じた支援が行えるようにしている。看護職員と介護職員は、申し送りや業務日誌等で情報を交換、共有し、体調変化の早期発見、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者と看護師がお見舞いに行き、ご家族や病院関係者と情報交換をしながら、回復状況を知るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、管理者が早い段階から家族と話し合いを行い、主治医の協力のもと事業所で出来る事を十分に説明している。	事業所として可能な限り支援することとしているが、体調に変化が見られれば、かかりつけ医の診断結果を踏まえて、家族と具体的な話を進め、今後の方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアルに沿って訓練を行っている。職員全員が普通救命講習を受講しており、初期対応の実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、災害対策のマニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。今年度は、民生委員や地域の方に参加していただいた。	夜間の火災想定避難訓練は、運営推進会議の後に実施し、消防署職員や会議のメンバーから、率直な意見をもらい、次回の訓練に活かすこととしている。	運営推進会議の後に避難訓練を実施し、その内容を見てもらったが、今後は、地域の人達に避難訓練への参加をお願いし、避難後の見守りなどを担ってもらうことが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等の話し合いで、職員の意識向上を図ると共に、お客様の誇りやプライバシーを損ねないよう、尊敬の念を持って接するよう心掛けている。	利用者の自立心を大切に、本人のできることややりたいことをサポートする支援に努めている。また、排泄や入浴など、羞恥心への配慮が必要な際には、声の大きさや本人の思いを汲み取るよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、お客様の思い、希望を聞き、その方に応じた選択方法や説明を行い、その思いがかなうよう、できる限り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの生活ペースに配慮し、その方の思いで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ、着替えの衣類はご本人に決めて頂いている。お手伝いが必要な方は職員が支援している。またお化粧品などもご本人の意思でして頂いている。職員がマニキュアをして差し上げる場合もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、お客様の希望や季節感を取り入れ作成している。お客様と一緒に買い物、下準備、配膳、後片付けを行っている。また、食事は職員と会話を楽しみながら行っている。	彩りの良さと食べやすさに配慮した食事作りに努めている。また、節分には鰯の代わりに「ししゃも」のフライを食卓に載せるなど、あれこれと会話をしながら、食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎回日誌に記録し、栄養バランスや水分量等を観察している。また、個々の好き嫌いを把握し、提供する食事量や形態を変更している。毎月体重測定を行い、一人ひとりへの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声掛けをし、介助が必要な方は、職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、時間毎の誘導・声かけをご本人の自尊心に配慮しながら行っている。	利用者ごとの排泄チェック表と、一人ひとりの表情などに留意し、さりげなく声かけし、トイレでの排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で乳製品や食物繊維が多く含まれる食材を使用し、自然な排便を促している。お客様によっては主治医の指示により薬による方法もとっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	概ね、午後から入浴して頂いており、せかすことなくご本人のペースでゆっくりと入ってもらっている。一応入浴予定者を決めているが、それ以外の方も自由に入浴できる。又、状況によって清拭や足浴も行っている。	ちょっと腰が重い利用者にも、「なら入るか」と思ってもらえるような声かけに努めている。また、好きな色の入浴剤を入れるなど、楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方には日中の活動を促しているが、そうでない方には状況に応じて日中も休んで頂いている。居室の温度管理や湯タンポ、温かい飲み物の提供なども行い、安心して休めるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合は、日誌に説明を記入している。また、薬の処方情報をファイルに綴じ、職員全員が把握できるようになっている。また、誤薬の無いように看護師、遅番職員、夜勤職員で3度チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中で発見したその方の得意とすることを役割として持って頂き、感謝の言葉を伝えている。又、地域の行事に参加する等して、気分転換が図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが、日常的に散歩、買物、ドライブに行っている。又、花見、外食や、月に一回の高齢者いきいきサロンでは、地域の皆様と交流させて頂いている。お墓参りは、ご家族にお願いしている。	近くのさくら公園への散歩、食材の買い出しなどに出かけたり、事業所の屋外に出てひなたぼっこを楽しんでいる。また、皆で回転寿司や、おとぎの森公園などにドライブし、笑顔を引き出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で持つておられる方もいるが、基本的に家族よりお小遣いとしてお金を預かり、事務所で管理している。そこから、買い物に出掛けた時、本人が欲しいものを買ったりできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書、切手の準備など手紙が出せる支援を行っている。電話は、希望時にいつでもかけられるようにしている。また、ご家族 友人からの電話も常時取り次いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、落ち着いた雰囲気、太陽の光が外から入るよう配慮されている。また、お客様の作品を展示したり、行事の写真を貼り、皆が楽しめる空間作りに取り組んでいる。畳の間には、仏壇があり、毎日お参りをするなど生活感を大切にした暮らしの場となっている。	リビングには、季節のお花や、納涼お楽しみ会などに写真を飾り、明るい雰囲気をくついている。また、キッチンからカレーを煮込む匂いが流れるなど、家庭的な環境と、過ごしやすい温度や湿度に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角には和室があり、腰を掛けたり、寝そべったりできる。又、新聞を広げじっくりと読んでいる方もおられる。お客様同士が日向ぼっこを楽しめる場所も設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染の家具が置かれている。又、各自が作成されたカレンダーやご家族の写真を飾ったり、季節によっては、散歩中、ご自分で摘んだ草花を飾られている方もいる。	居室には、歴史ものの書物や、テレビなどを置き、また、好きなキャラクターの毛布を敷いてゆったり休むなど、利用者一人ひとりが寛げる居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって、何が『わかりにくい』のかを把握し、どうすれば、『できること』、『わかること』に変えられるかを職員全員で話し合い、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れる環境創りをしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 はびねすグループホーム高岡南
作成日 平成 31年 1月 20日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練に地域の皆様に参加していただく。	避難訓練に地域の皆様の参加をお願いする。	運営推進会議などを通して地域の皆様に避難訓練の参加を働きかける。	一年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

はびねすグループホーム高岡南